

『距ててて』 脚本・共同製作：豊島晴香

1. あなたのプロフィールを書いてください。名前、生年月日(不記載もOK)、出身地、どこで映画を学んだか、フィルモグラフィーなど。

豊島晴香、平成元年10月1日、東京

映画美学校アクターズコースの実習で初めて映画の現場に触れ、卒業後同期だった加藤紗希とともに創作ユニット「点と」を結成。手探りしつつ映画製作に取り組んでいます。

脚本を担当し主演した『泥濘む』が第41回ぴあフィルムフェスティバルにて入選。普段は主に舞台作品に出演しています。

2. 映画を志したきっかけについて書いてください。

監督の加藤に「一緒に映画を作りたい、脚本を書いて欲しい」と言われたことが映画の世界に足を踏み入れたきっかけです。その作品(『泥濘む』)がPFFに入選し、たくさんの人に見てもらえたことでもっとやってみたいと思うようになりました。

3. 影響を受けた監督、作品、その他、小説、芝居なんでも構いません。

まど・みちおさんの詩や舟越桂さんの彫刻が好きなのですが、個をみつめ続け、個にせまっていけば宇宙的なものにつながっていく、という考え方には影響を受けている気がします。

4. 出品した作品を作った意図はなんでしょうか。

監督・脚本ともに俳優であり、「俳優発信の映画」というところを意識して製作しているのですが、出演してくれる俳優それぞれが最大限魅力的に見えるようあて書きにこだわっています。

前作の『泥濘む』では、人間はみんな違うのだから、俳優自身から湧いてくるイメージをもとに登場人物のキャラクターを考えればそれだけでオリジナルな作品になるのでは?という実験のような感じで脚本を書いたのですが、今作ではそこに加えてもう少し物語自体にこだわりたいという気持ちでつくりました。

5. 近い将来、遠い将来の目標はなんでしょうか。

近い将来に関しては、現在この作品の劇場公開に向けて動き出しているので、なんとか盛り上げて全国色々な場所で上映できるように頑張りたいです。

遠い将来の目標に関しては、ライフワークのように創作活動を続けていつてつくることを楽しみ続けること(もちろん関わる人にも楽しんでもらうこと)、また作品を通して、人がそれぞれ違っていることの不思議さ豊かさについて考え続けていきたいです。

6. 現在の日本で映画を作る環境について、何か意見はありますか。

あまり自分たちの作品以外の現場をよく知らないのですが、お互いを尊重しあうことをベースにした創作環境が当たり前になれば良いなあと思います。

7. 現在、あなたには特定のプロデューサーはいますか、また、映画製作の資金調達はどのように行なっていますか。

基本的に自分たちで企画や運営をしているのでプロデューサーはいません。資金調達は毎回悩みながら行っています。

8. 次回作の企画があれば、開示できる範囲で書いてください。

これから考えます。

9. 映画以外に興味があれば書いてください。

そんなに詳しくありませんが植物に興味があるので、花や野菜をベランダで育てています。また去年の春に野草食に目覚めたので、趣味にしていきたいです。